

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072900337		
法人名	有限会社 大原ウェルフェア		
事業所名	グループホーム大原苑		
所在地 (電話番号)	小郡市大板井391-36		(電話) 0942-73-1218
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成 19年 4月 3日		

## 【情報提供票より】(19年 2月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年	3月 1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	17人	常勤 10人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.5

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <del>単独</del>	<del>新築</del> / 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 昼食代に含む 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 2月 20日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院、嶋田病院、河原内科、福山泌尿器科、さくら歯科
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中に2ユニットが隣接して新築されている。事業所代表者自身が将来入居して安心して生活できる施設にしたいとの熱意をもって開設されたとう。特に子供たちと触れ合う機会を重要視して広い遊び場を中心に挟んだ状態で向かい合うように保育園も建ててあり、年間を通して盛んに交流があつている。食材も自家菜園で栽培した野菜や入居者と一緒に摘んできた菜の花やつくしなどが食卓に並び、四季や自然とのふれあいを大切にされている。また、入居者、職員がとても穏やかな表情で家族的な雰囲気生活されているのが印象的である。家族の宿泊や入居者の外泊など自由で何事も入居者本意の支援が実践されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員は評価の意義を理解しており、日々改善へ向けて具体的な目標を掲げて熱心に取り組んでいる。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎に運営推進会議が開催されている。家族、町内会長、民生委員、行政など幅広い参加のもと、苑の取り組み状況を報告して参加者との意見交換を行い、サービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 体調変化などは電話にて当日家族へ報告している。また、面会時に金銭管理や日常生活状況を報告すると共に家族会ではケース記録を見ていただくようお願いしている。更に、家族会や面会時には常に問いかけをおこない、意見や苦情など気軽に言ってもらえるように雰囲気づくりに留意している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会へ入り、餅つきやぜんざい会等の地域行事へ参加したり、回覧板を回すことで隣近所との親睦を重ねている。また、ホーム周辺の散歩コースでは親しく挨拶を交わしたり、近隣の方から畑の採れたて野菜をいただくなど親交を深めている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心して暮らせるための「一人ひとりを大切に・・・」と分かりやすく苑独自の理念をつくりあげている。また、理念は誰でもが見やすい位置に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやカンファレンス時には管理者や職員が理念を共に意識しながら話し合いを行い日々実践できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ入り、餅つきやぜんざい会へ参加したり回覧板を回すことで隣近所と親睦を重ねている。また、ホーム周辺の散歩コースでは親しく挨拶を交わしたり、近隣の方から畑の採れたて野菜をいただくこともあり、親交を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解しており、日々改善に向けて具体的な目標を掲げて熱心に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議が開催されている。家族、町内会長、民生委員、行政など幅広い参加のもと、苑の取り組み状況を報告して参加者との意見交換を行いサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター担当職員と連絡を密に取り合いグループホームや地域情報などの入手を行い、共に質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者があり、相談や助言も必要に応じて行なっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調変化などは電話にて当日家族へ報告している。また、面会時に金銭管理や日常生活状況を報告すると共に家族会ではケース記録をみていただくようお願いしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時には常に問いかけをおこない、意見や苦情など気軽に言ってもらえるように雰囲気づくりに留意している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動は最小限にとどめているが、止むを得ず異動するときは入所者や家族へ事情を説明して理解を得ている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては、事業所に適した必要な人であるか、能力や資格を考慮しているが、勤務内容は年齢や性別に関係なく公平にしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングや職員会議で人権教育、啓発活動に取り組んでいる。また、法人代表者が毎日出勤して職員の言動や利用者への接し方を観察する等啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修は必要に応じて行なっているが、外部研修の機会が少ない。	○	職員の質の向上のために年間計画の中に職員研修を位置づけて他の事業所の学習会や研修会等に参加し、更に研修内容を全職員が共有することが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域グループホーム交流会へ参加し、勉強会や意見交換等でサービスの質の向上に取り組んでいる。現在休止しているが再度の取り組みを検討している。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に自宅や入院先などへ出向き本人、家族へ面会して状況把握に努めている。家族、本人がホームを見学して入居に至るケースもある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>伝統行事や季節毎の料理作りなどでは、人生の先輩として学ぶことが多いいろんなことを教えてもらっている。</p>		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時にアセスメントをして思いや、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族また必要時には医師からの意見を聴取したり、担当者会議を行って、それぞれの意見を反映させ、介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じて介護計画の見直しが行なわれている。変化が生じた時はその都度話し合いをし、見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や家族の宿泊等、本人や家族の状況に応じた対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を決めて受診をしているが、家族の希望があればほかの病院も紹介している。医療期間との連携が取れており、適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は家族や、かかりつけ医と何度も話し合い、全員で方針を共有している。入居時には「終末期看取り方針について」同意書を頂いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉かけや、対応は見られなかった。記録等の個人情報の取り扱いも職員それぞれが注意して行なっている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合のみを優先せず、一人ひとりのペースを大切にしている。例えば生活のリズムを整える為、一定時間に起床の声掛けはするが、本人の体調や気分に合わせて対応を行なっている。毎日楽しく暮らせるように支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら利用者と職員と一緒に、調理の下ごしらえや、下膳等を行なったり、近くで一緒に摘んできて調理した、つくしや菜の花の話しをしながら食事が行なわれていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴である。午前が中心であるが、行事により午後になることもある。曜日は決まっているが入浴は楽しませている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、習字、お絵描き、折り紙等、本人の生活歴や力を活かした楽しみ事や、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	つくし取りや、菜の花摘み、四季折々のドライブ、地域の行事への参加、買い物等その日の希望や状態に応じて戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	8:00から17:00までは鍵を掛けない開放している。その他の時間は、職員が手薄になるので安全の為に鍵をかけている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所、方法は内部でのみ話し合いをしている。マニュアルは事務所の壁に貼られている。	○	運営推進会議等で地域の人々の協力が得られるように働きかけて欲しい。また再度職員全員が火災元に応じた避難経路の熟知、避難ルートの安全性の点検を行なう事が求められる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立がされており、一人ひとりの身体の状態に応じておかげにしたり、刻んだりして支援している。食事摂取表があり水分量も一日を通じて確保出来るように、状態に応じた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく食堂からは庭が眺められ、季節を感じる事が出来る。玄関には季節の花が生けられ、廊下には家庭的な装飾がされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベットとタンスはホームの備え付けであるが、テレビやテーブル、装飾品等好みものが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>		